

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日:令和 4年 7月 13日

事業所名:きぼうっこ逆瀬川

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	十分なスペースを確保している 療育の部屋と自由時間の部屋を分けるなど、療育に支障が無いように、空間を分けるようにしている	「はい」:82% 「どちらともいえない」:6% 「いいえ」:7% 「わからない」:5%	引き続き、通所して頂いている方には、快適に過ごして頂けるように、出来る限り整理整頓し、広い空間を確保するようにする
	2 職員の適切な配置	基準人員以上の職員を配置している 法人全体で、資格や適性に合った配置になるように工夫している	「はい」:87% 「どちらともいえない」:1% 「わからない」:12% ・具体的な配置が不明 ・何人でどうというのは分からない	・新年度が始まる際に、職員紹介を書面で実施しており、その中の職員が毎日配置されている ・職員は必ず4名以上配置している
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	極力、療育を実施する場所では、いらぬものを省くなどし、集中できるように配慮している 階段には手すりがついている 声かけよりも視覚支援の方が有効な方に対しては、絵カードなどを使用している	「はい」:57% 「どちらともいえない」:16% 「わからない」:27%	・利用児童の分かりやすい環境設定や方法でできる範囲での設備整備をしながら、療育を実施していく ・引き続き、日々の消毒や換気などの感染対策の徹底を行う
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	コロナ過でもある為、清掃、換気、消毒を徹底している		
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	改善提案など定期的に作成したり、法人内で部門別業務目標管理シートを活用し、課題や目標について定期的に振り返っている		
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	実施できていないが必要に応じて活用する		

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	外部講師を招いての研修や法人・事業所内研修に参加している 研修計画に基づき、外部研修にも参加している		
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・モニタリング時期になると、保護者や児童から意向や要望を聞き取り、職員間で担当者支援会議を開き、子ども一人一人に合わせた計画を作成している ・SSTでは、ソーシャルスキルスキルの尺度を、4領域(集団行動、セルフコントロール、仲間関係、コミュニケーション)に分け、具体的な支援方法を個別支援計画の中に記載している ・運動療法では、短期目標を細かく設定し、継続的に取り組んで達成できる目標となるようにしている ・個別支援計画に沿って療育を実施している 	「はい」:99% 「どちらともいえない」:1%	<ul style="list-style-type: none"> ・モニタリング時や個別面談時に、保護者や児童のニーズをしっかりと把握し、一人一人の児童の状況に応じた個別支援計画を立案出来るようにしていく ・個別支援計画立案時には、全職員で話し合い、計画書を作成し、情報共有できるようにする
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成			
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載			
	4 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施			
	5 チーム全体での活動プログラムの立案	クラス担当を中心にプログラムを立案するが、それをもとに、職員間でアイデアを出し合い、活動プログラムを立案している		
	6 平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	季節に応じた行事を行ったり、療育内容を工夫する等、時期に応じた支援を行っている	「はい」:79% 「どちらともいえない」:5% 「いいえ」:2% 「わからない」:14% <ul style="list-style-type: none"> ・むしろSSTにと特化されていると思う ・毎日どのようにしているかはよく分からない 	<ul style="list-style-type: none"> ・SSTが主である事業所である為、基本的にはSSTメインでの療育となっているが、季節感が感じられる行事なども実施しつつ、楽しみながら通所して頂けるように工夫していく ・毎回のSSTの内容をフィードバックすることは難しいが、保護者から尋ねられた時や、何かいつも違う変化がある時には、メールや電話、連絡帳に記載し共有するようにしていく
	7 活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	目標設定する中で、活動内容を工夫し、様々なパターンで実施できるように工夫している		

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
適切な支援の提供(続き)	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	療育実施前に全職員で療育内容やそれぞれの役割を確認し、療育中の自分たちの仕事を把握するように徹底している 情報共有することで、全ての職員が児童に対して同じ対応ができるように気を付けている	
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	療育終了後に、全職員で療育内容のふり返りを行い、次の療育に活かせるように情報共有している	
	10	日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	毎回の療育内容を日誌やケースに記録するようにしている	
	11	定期的なモニタリングの実施及放課後等デイサービス計画の見直し	半年に一回モニタリングを実施し、次回の個別支援計画に反映できるようにしている	
関係機関	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議への参画	管理者以外に、児童の担当職員やクラス担当が会議に参加し、状況を把握するようにしている	管理者や担当職員など、子どもの状況をより理解している職員が参加するようにしている
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施		

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
との連携 関係機関との連携(続き)	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備			
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有			
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、	保護者からの依頼があれば、丁寧に実施するようにしている		
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	保護者向けの研修の案内があれば、玄関に掲示したりメールでお知らせするようにしている		
	7	児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	特に実施していない		
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営			
	保護者への説明	1	支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	・契約時又は利用者負担等内容に変更がある時には必ず書面でお渡しし、サインを頂くようにしている ・不明な点は直接尋ねて頂くようにしている	「はい」:100% ・内容について不明な点や分かりにくいことがあれば、直接問い合わせさせて頂くようにお伝えしている ・変更があった時には、必ず同じものを2部お渡しし、双方で押印をした後、保管できるようにしていく
		2	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	・年に2回、モニタリング実施後に、個別支援計画の説明を、コロナ過であるため、電話、オンラインで実施している	

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
責・連携支援	3	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・きぼうっこ逆瀬川ではペアレントトレーニングは実施していない ・「児童発達支援 きぼうっこアピア」では実施している為、一度見学し内容を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> 「はい」:86% 「どちらともいえない」:7% 「いいえ」:2% 「わからない」:5% 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアレントトレーニングは実施していないが、保護者から子どもとのかかわり方について相談があった際には、適切な対応方法をお伝えできるようにしていく
	4	子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・電話やメール、連絡帳、自己送迎される方は直接会った時に、児童の様子を出来る限り伝えるようにしている ・療育の内容についてはふり返りシートを持ち帰って頂き、内容を見て頂けるようにしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・忙しいので普段は相談や助言などの支援はこちらからは言いにくい ・コロナ禍に伴い、遠隔でサービスを受けている 	<ul style="list-style-type: none"> ・モニタリング時や個別面談時を中心に、児童の様子を丁寧に伝えていく ・気になったことがある時には、連絡帳やメール、電話で直接お伝えするようにする
	5	保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・来所時や電話、個別面談時に相談を受け、必要な助言をするようにしている ・その場で解決出来ない事に関しては、職員間で話し合った後、保護者にフィードバックするようにしている 	<ul style="list-style-type: none"> 「はい」:88% 「どちらともいえない」:5% 「いいえ」:6% 「わからない」:1% ・定期的に面談あり ・こちらからは今のところ相談なし 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、保護者からの悩みに対して真摯に向き合い、相談に乗り必要な助言をすることが出来るようにしていく
	6	父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、コロナ禍の為実施できていない 	<ul style="list-style-type: none"> 「はい」:15% 「どちらともいえない」:36% 「いいえ」:18% 「わからない」:31% ・コロナ過で難しい・コロナで開催されていないだけ・コロナ過で行事は難しいと思うのでどちらでもないにした・コロナ終息後に期待する・コロナの為仕方ない 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ過ではあるが、外で実施出来る行事や、少人数で参加できるもの等、法人と相談しながら、工夫して徐々に実施できるようにしていきたい
保護者への説明責・連携支援	7	子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	<ul style="list-style-type: none"> ・苦情解決体制について書面を掲示している ・苦情が合った時には事実関係を調査し、保護者では対応方法を書面で伝えるようになっている 	<ul style="list-style-type: none"> 「はい」:92% 「わからない」:8% 	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から色々なことに気を配り、苦情に繋がる前に解決できるように努力する

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
援 (続 き)	8	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	必要に応じて、メモ・絵カード・スケジュール提示するなどして、分かりやすく伝えるように気を付けている	「はい」:94% 「どちらともいえない」:3% 「わからない」:3%	引き続き必要な配慮を考え実施していく
	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	・法人内会報「きぼう号」を発行している ・毎月、ホームページで行事や活動の様子をお知らせしている	「はい」:69% 「どちらともいえない」:9% 「いいえ」:3% 「わからない」:19%	・年度初めに、年間行事予定表を配布している ホームページを定期的に更新し、療育の内容をお知らせできるように努める ・個別面談時にも、ホームページのことなどをその都度知らせるようにする
	10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	・契約時に個人情報の取扱いについて保護者に説明している ・見学者に対しても個人情報の取扱い同意書を取っている	「はい」:95% 「どちらともいえない」:5%	引き続き、適切な取り扱いを行っていく
非 常 時 等 の 対	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	・各事業所ごとにそれぞれのマニュアルを作成している ・保護者へは、希望があれば閲覧して頂けるようにしている ・BCP策定を行った	「はい」:89% 「いいえ」:9% 「わからない」:2%	・コロナ過でもあるため、特に感染症に対するマニュアルの見直しを行っていく ・BCP策定した為、そこも定期的に見直しを行っていく
	2	非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	・年に2回、火災・地震を想定した避難訓練を全クラス対象に実施している ・保護者へは毎回メールで周知している ・実施したことをホームページにも掲載している	「はい」:82% 「どちらともいえない」:17% 「いいえ」:1%	・引き続き、避難訓練を実施し、緊急時に全職員が対応できるようにしておく ・避難訓練実施前には、保護者の方にはメールで知らせることを継続していく
	3	虐待を防止するための職員研修機会の確保等の適切な対応	・法人内での研修や外部講師を招いての研修に全職員が参加している ・虐待防止マニュアルを作成して、実行している		

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
対応	4	やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	・身体拘束は行っていない ・但し、席から離れた児童を席に誘導する等、皆と一緒に活動に参加できるように支援することがあるため、個別支援計画に記載している	
	5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	・現在おやつを提供している為、保護者にアレルギー確認を行っている	
	6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	・ヒヤリハットや事故などあった時には、記録に残し、法人内、事業所内で情報共有し、改善案を検討している ・記録に残した3ヶ月後には、振り返りも行っている	・事故になる前に、ヒヤリハットを見つけ、対処できるようにする ・事故やヒヤリハットが起きた時には、同じことが繰り返されないように意識する
満足度	※ 子どもは通所を楽しみにしているか 事業所の支援に満足しているか	・学年や年齢によって、きぼうっこに通う目的は色々である気がする ・通所して頂いた方には、SST療育をしっかりと行いつつ、楽しめる活動も取り入れることで、定期的に通っていただけるように工夫する	子どもは通所を楽しみにしているか 「はい」:82% 「どちらともいえない」:17% 「いいえ」:1% ・毎回行くのを楽しみにしています ・楽しみと言うより行くべきところと認識している様子 事業所の支援に満足しているか 「はい」:97% 「どちらともいえない」:3% ・オンライン支援と言う形でとても助けて頂いた ・活動状況をリモートで見れるようにしてほしい ・もう少し子どもの様子が知りたい	・状況に応じて保護者の方にも見て頂ける機会を作るように努力する ・コロナ過でも実施できる療育を引き続き提供できるようにしていく